

ダブルロックジョイント 取扱説明書

ダブルロックジョイントを正しく、安全に使用していただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。

【仕様及び構造】

- ❗ この記号は、必ず実行していただく『強制』内容です。
- 🚫 この記号は、してはいけない『禁止』内容です。
- ⚠️ この記号は、気を付けていただきたい『注意喚起』内容です。

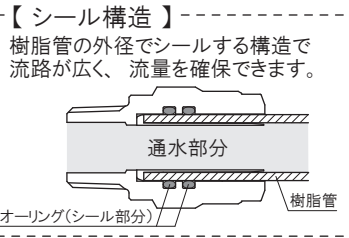
【適用樹脂管】本製品の適用樹脂管は以下の通りです。

- 架橋ポリエチレン管 (JIS K 6769 PN15 M種 XM) ポリブテン管 (JIS K 6778 J種)
 水道用架橋ポリエチレン管 (JIS K 6787 M種 XM) カポリEFパイプ<ブルー・ピンク>(日本水道協会認証登録品)
- 給水・給湯・暖房・融雪用・・・日本産業規格表示認証品 及び カポリEFパイプ
 - 風呂追焚き用・・・日本産業規格表示認証品 及び 日本産業規格適合品(規格寸法準拠品)
- ※25Aの適用樹脂管は、架橋ポリエチレン管・水道用架橋ポリエチレン管のみです。

【仕様】本製品の仕様は以下の通りです。仕様の範囲内で使用して下さい。

	最高許容圧力	使用温度範囲	使用流体	用途
継手	1.75MPa	-20℃～95℃	冷温水 不凍液	給水・給湯 暖房・融雪・追焚き
ボールバルブ	1.0MPa	0℃～80℃	冷温水	給水・給湯
流量調整ボールバルブ	1.0MPa	5℃～35℃	水	給水

※逆止弁付ボールバルブの二次側逆流時は80℃以下です。
 ※上記はダブルロックジョイントの標準仕様のため、各製品の特別仕様及び樹脂管の使用温度別最高使用圧力をカタログ等で確認して下さい。



【樹脂管接続手順】樹脂管の挿入不足及び、樹脂管の外径キズは、漏水事故の原因となります。手順に従い確実に作業を行って下さい。

1 <樹脂管切断>
樹脂管の外径にキズがないことを確認し、管軸に直角になるように切断して下さい。
※2mm以上の斜め切断やのこ歯、カッターナイフでの切断は不可です。必ず市販のパイプカッター又はダブルロックジョイントパイプカッターを使用し、切断後樹脂管の切屑・さくれ等がある場合は除去して下さい。※管端に面取りをしてはいけません。

4 <インコア挿入>
インコアを樹脂管に挿入します。(根元まで完全に押し込んで下さい。)指で挿し込みづらい場合は、木ハンマーで圧入して下さい。インコアは樹脂管の変形を矯正し、長期間シール性を維持する役割がありますので必ず挿し込んで下さい。

2 <インコア取出し>
継手に貼られたシールをはがし、インコアを取り出します。(インコアは逆向きに入っています。)

5 <樹脂管挿入>
継手内径・樹脂管外径にキズ、汚れ、異物付着など異常の無い事を確認し、継手に樹脂管をまっすぐに挿し込みます。シールの平面(赤線等)又はマーキングの位置が継手の端面まで入ると正しい施工です。

3 <挿入深さマーキング>
漏水事故防止の為、必ず①～④のいずれかの方法で挿入深さをマーキングして下さい。
※25Aの場合は、③又は④の方法でマーキングして下さい。

① マーキング位置
はがしたシールをインコア挿入部の長さに合わせて、樹脂管に貼り付けます。又は専用マーカで樹脂管にマーキングをします。

② 切断位置 確認線
予め樹脂管に目印がマーキングされているカポリパイプW、又は当社ポリブテン管を使用します。

③ 専用マーカ
目印くん
マーキングの位置が簡単に分かる目印くんと専用マーカでマーキングをします。

④ 専用マーカ
ダブルロックジョイントパイプカッターと専用マーカでマーキングをします。(20Aを除く)

6 <挿入確認>
シール又はマーキングの位置で挿入深さを確認します。樹脂管を引っ張り、抜けないかを確認します。樹脂管を少し回転させ継手となじませます。挿入深さ確認のため、シールは貼り付けたままにして下さい。

【樹脂管適用区別】樹脂管の種類により品番を16A、20AはA・Cの2つに区別しています。適用する製品を使用して下さい。

品番例			
無	10A・13A	架橋ポリエチレン管 PN15 M種 XM、水道用架橋ポリエチレン管 M種 XM	ポリブテン管 J種、カポリEFパイプ <ブルー・ピンク>
A	16A・20A	架橋ポリエチレン管 PN15 M種 XM、カポリEFパイプ <ブルー・ピンク>	
	25A	架橋ポリエチレン管 PN15 M種 XM、水道用架橋ポリエチレン管 M種 XM	
C	16A・20A	ポリブテン管 J種	

【保管及び施工上の注意事項】

● 継手、樹脂管とも雨や日光の当たらない場所に保管し、施工の際は必ず遮光処理を施して下さい。

● 樹脂管は必ずパイプカッターを用いて切断し、曲がり及び切断面の変形は矯正してから継手に挿し込んで下さい。

● 被覆材の切除には、必ず専用被覆カッター(当社品番:OSC-058)を使用して下さい。市販のカッターナイフ等は使用しないで下さい。樹脂管にキズを付けると漏水の原因になります。

● 継手と樹脂管は、樹脂管の外径でシールします。必ずキズ及び汚れが付かないように保管・運搬して下さい。

キズ、汚れのないこと
要子エック!!

● 樹脂管は温度別使用圧力の範囲内で必ず使用して下さい。使用する樹脂管の性能表を確認して下さい。

● 凍結の可能性がある場合は、必ず凍結防止対策(保温処理や水抜システムの構築)を施して下さい。

● 継手に樹脂管を確実に挿し込んで下さい。シール又はマーキングで必ず確認して下さい。

● 製品を土中及びコンクリートに埋設する際は、埋設に使用できることをカタログ等で確認の上、専用のポリエチレン防食テープ(当社品番:OSC-033-25(50))で必ず適切な防食処理を施して下さい。一般的な塩化ビニルを基材とする防食テープは樹脂管を劣化させるため使用してはいけません。

● ねじ込みの際は、必ず下記の適正締付トルクで締め付け、過大な力を加えないようにして下さい。

適正締付トルク(黄銅・青銅製品) [N・m]

呼び径	R・Rc	G½	
	テーパねじ	ハンズベストパッキン	EPDMパッキン
1/2	25～35	20～30	15
3/4	40～50	30～40	15
1	50～60	40～50	15

黄銅・青銅製品よりも硬い材質を組み合わせる場合も上記トルクで締め付けて下さい。変形、漏れの原因になります。

● 接着剤による接続をしてはいけません。

● 有機溶剤を含有したマーカ、ペンキ等で樹脂管にマーキングをしてはいけません。必ず専用マーカ(当社品番:OSC-008A, B, C)を使用して下さい。

● 樹脂管にきずを打ち込んではいけません。樹脂管のつぶれが無いようにして下さい。

● 架橋ポリエチレン管は95℃、ポリブテン管は90℃よりも高温を発生する熱源機器に接続してはいけません。

● 70℃を超える湯を常時通水又は循環する配管やエコキュートのヒートポンプと貯湯タンク間の湯側(戻り)配管に使用してはいけません。

● 接続部よりすぐに樹脂管を曲げて配管してはいけません。

※本取扱説明書に記載されている事項を守らずに使用された場合の破損、事故に関しては当社では責任を負いかねます。

株式会社 オンダ製作所

●営業本部 〒501-3263
 岐阜県関市広見851番地の3
 TEL (0575)24-8585 (代)

URL <https://www.onda.co.jp/>

商品の技術的なお問合せ専用回線です。(ご注文は営業窓口へお願いします。)
 お客様相談窓口 ☎ 0120-12-8585

受付時間 9:00～12:00/13:00～17:00 (土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く)